



《シリーズ ケアをひらく》

向谷地さん、幻覚妄想って
どうやって聞いたらいいんですか？

向谷地生良＝著

定価 2,200 円／A5 判・296 頁／医学書院／2025

精神医療の常識を溶かし、対人支援の枠組みを更新し続ける「べてるの家」の向谷地生良氏。当事者がどんな話をしていても彼は「へえー」と興味津々だ。その「へえー」こそがアナザーワールドの扉を叩く鍵だったのだ！大澤真幸氏の特別寄稿「〈知〉はいかにして〈真実〉の地位に就くのか？」は“良心的兵役拒否者”である向谷地氏に言語論から迫る必読論文。



災害支援における多職種連携

保健・医療・福祉活動の総合調整をめざして

小井土雄一、石井美恵子＝編

定価 3,080 円／A5 判・264 頁／医学書院／2025

地震や異常気象により毎年のように災害が発生している。そして COVID-19 のようなパンデミックも災害と考えられる。次はどこが被災するかわからない。医療従事者は災害時の支援・受援を知っておく必要がある。重要な概念は 2 つ、多様な職種との連携と被災者の人権尊重。本書は令和 6 年能登半島地震も踏まえ、14 チームと 13 団体の強みを紹介し、多職種連携とともに人権憲章やジェンダーの問題などあらゆる災害支援のあり方について伝える。



今日の診断指針 ポケット判 第9版

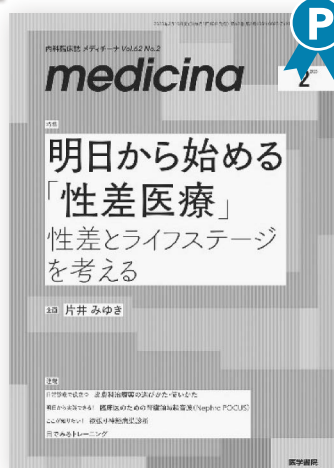
永井良三＝総編集

定価 22,000 円／B6 判・2016 頁／医学書院／2025

本邦最大級の診断マニュアルの全面改訂第9版。症候編 172 項目と疾患編 691 項目を相互リンクで構成し、臨床医が遭遇しうる疾患の診断に必要な情報をコンパクトに提示。専門外の領域でも臨床医として知っておきたい全身の症候、各診療科の疾患を 1 冊に網羅。第9版では、診断に関するエビデンス情報も随所に追加。新見出しとして「専門医へのコンサルト」を収載。

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.465)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。

P



『medicina』2025年2月号 (Vol.62 No.2)

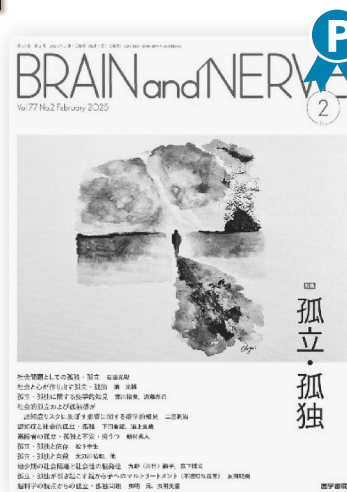
明日から始める「性差医療」

性差とライフステージを考える

片井 みゆき＝編

定価 2,970 円／B5 判・192 頁／医学書院／2025

性差医学・医療は、①生物学的性差、②社会的性差、③ライフステージによる内分泌環境の性差に配慮し、個々の患者により適した医療を提供することで診療の質と精度の向上を目指すものである。本特集では、性差がみられる代表的な領域において、各分野の第一人者に、ライフステージによる差もふまえた性差のエビデンスを概説いただいた。また、性差医学・医療が果たす役割と活用も取り上げている。初学者を含めて性差医学のアウトラインを興味深く学べること、エキスパートの方々にも性差医学の知識をアップデートしていただけることを目指した。



『BRAIN and NERVE』2025年2月号 (Vol.77 No.2)

孤立・孤独

BRAIN and NERVE 編集委員会＝企画

定価 3,080 円／A4 変判・104 頁／医学書院／2025

日本社会では孤立・孤独が静かに広がり、コロナ禍を経てその深刻さは増している。種々の研究からは、孤立・孤独が死亡率を上昇させ、認知症やうつ病のリスクを高めることが明らかになっている。英国では2018年に孤独担当大臣という専門ポストが設置され、本邦でも2023年に孤独・孤立対策推進法が成立するなど、いまや世界的な社会課題と言える。本特集は、孤立・孤独が私たちの心身や社会に与える影響を、社会科学、精神医学、神経科学の観点から紐解く試みである。孤立・孤独がなぜ深刻な問題なのか、どのように対峙していくべきなのかを考えてみたい。